

令和4年度

雫石町コミュニティ・スクール

実践報告集

ふるさと雫石への誇りと愛着を育てる教育
～社会総がかりでの子育ての実現～



(雫石十四景 残雪の駒ヶ岳)

令和5年3月

雫石町教育委員会

目 次

推進について-----	1
令和4年度雫石町コミュニティ・スクール推進事業-----	2
令和4年度雫石町コミュニティ・スクール研修会-----	4
コミュニティ・スクール意見交流会-----	5
令和4年度雫石小学校コミュニティ・スクール実践報告集-----	6
令和4年度七ツ森小学校コミュニティ・スクール実践報告集-----	11
令和4年度西山小学校コミュニティ・スクール実践報告集-----	16
令和4年度御明神小学校コミュニティ・スクール実践報告集-----	24
令和4年度御所小学校コミュニティ・スクール実践報告集-----	31
令和4年度雫石中学校コミュニティ・スクール実践報告集-----	35

「学校運営協議会」と「地域学校協働活動」の 一体的な取り組みによる 雫石型コミュニティ・スクールの推進

雫石町では、令和3年4月より、「開かれた学校」づくりを目指す学校評議員制度から「地域とともにある学校」づくりを目指す学校運営協議会制度に移行した。

各学校に学校運営協議会を設置して、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めている。

現在、本町では、「ふるさと雫石への誇りと愛着を育てる教育」の実現に向けて教育諸政策を展開しております。これは、現在の本町児童生徒の特色である「地域への愛着の高さ」や「地域活動への参加意欲」、あるいは「規範意識の高さ」といった「良さ・強み」を一層生かしながら、数十年後に地域で貢献できる児童生徒を育成している。

「雫石型コミュニティ・スクール」は子どもたちの良き原体験としても、大きく役立つとともに具体が見える地域活動を実感し、地域への意識や愛着が一層高まっていると思う。

本年度は、2回のコミュニティ・スクール研修会、雫石町内6校のコミュニティ・スクール意見交流会、コミュニティ・スクール研修のDVD配布、コミュニティ・スクール通信（1号～13号）を通じて、さらなるコミュニティ・スクールの推進をした。



地域の方から実践で学ぶセツ森小児童



地域の方から実践で学ぶ西山小児童



御明神小地域住民チョウセンアカシジミ観察会

令和4年度雫石町コミュニティ・スクール推進事業

1. 事業の目的

「学校運営協議会」と「地域学校協働活動」の一体的な取組みによる雫石型コミュニティ・スクールの推進。

2. 学校運営協議会制度

令和3年度より、「開かれた学校づくりを目指す学校評議委員会制度」から「地域とともにある学校づくりを目指す、学校運営協議会制度」に移行した。

各学校運営協議会において学校運営協議会を設置し、学校運営に参画していただける地域の方々を委員として委嘱し、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めるほか、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5に規定されている下記のことについて協議を行う。

- ① 校長が作成する学校運営の基本方針を承認すること。
- ② 学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べることができる。
- ③ 教職員の任用に関して、教育委員会で定める事項について、教育委員会に意見を述べることができる。

3. 学校運営協議会

(1) 主な内容

第1回学校運営協議会（委員委嘱・学校運営方針承認・年間計画・地域学校協働活動の計画）

第2回学校運営協議会（上半期の学校評価・コミュニティ・スクール研修・地域学校協働活動）

第3回学校運営協議会（次年度学校運営方針承認・学校評価・次年度計画・地域学校協働活動）

(2) 実施日

学校名	第1回学校運営協議会	第2回学校運営協議会	第3回学校運営協議会
雫石小学校	5月24日 15:30～	10月24日 16:00～	3月9日 15:00～
七ツ森小学校	5月7日 18:30～	11月14日 14:00～	3月10日 10:30～
西山小学校	6月2日 18:30～	11月9日 14:00～	2月20日 13:30～
御明神小学校	5月11日 18:30～	10月22日 14:00～	2月27日 15:45～
御所小学校	5月25日 18:30～	10月26日 18:30～	2月17日 13:50～
雫石中学校	6月7日 16:00～	11月29日 14:30～	2月14日 14:30～

4. 地域学校協働活動

従来の教育振興運動、PTA活動、特色ある学校づくり、校外活動、地域行事等について、学校運営協議会で協議しながら実施する。

教育委員会内に地域学校協働活動推進員1名を配置し、社会教育指導員とともに地域と学校の協働を推進する。

地域と学校が熟議をして目標を共有しながら、学校にも地域にもメリットがあり、WIN & WINの関係を築き、地域住民の多くの人が学校に集まる「地域とともにある学校」を目指していきたい。

5. 雫石町コミュニティ・スクール（CS）成果と課題

(1) 成果

- ① 学校運営協議会を各CS年間3回実施できた。委員の皆様方から学校運営の重点の承認や学校経営の評価を受け、全ての小中学校で学校課題解決の話し合いも行われた。また、昨年度に比べて、各委員からの意見が多く出される。
- ② 学校運営協議会委員研修会を2回に分けて実施した。秋田県生涯学習センターの皆川雅仁氏を招聘して講義で学校運営協議会制度や地域学校協働活動について委員の理解を深め、ワークショップ形式で「熟議」を体験した。
- ③ CSに移行して各学校で行われてきた地域連携や地域の学校支援がより活発になった。
- ④ 学校運営協議会で「地域と学校をつなぐ共通のテーマ」について話し合われ、実践活動に向けて取り組むコミュニティ・スクールもある。

(2) 課題

- ① 学校運営協議会での話し合いを充実させるためにも委員や教職員の研修が必要。
- ② 目標共有のため、地域住民と学校の「熟議」を展開する必要がある。
- ③ 地域と学校の関係は学校支援が多く、地域学校協働活動へと発展させたい。
- ④ 地域でのコミュニティ・スクールの理解や認知度が低い。

(3) 今後の取り組み

- ① 学校運営協議会委員や教職員対象のコミュニティ・スクール研修会や先進地視察研修を実施する。
- ② 地域学校協働活動は「熟議」を通して、地域と学校で目標共有し、多くの地域住民が参加できる活動を目指したい。
- ③ 現在実施している学校と地域の連携や地域の学校支援活動を発展させ、地域と学校が目標を共有しWIN&WINの地域学校協働活動を実施していきたい。
- ④ 広報やHP等で周知活動を活発にしていきたい。地域連携や地域学校協働活動が定着することにより、コミュニティ・スクールも周知されるようになると思う。



防災学習で火山噴火について学ぶ西山小児童

コミュニティ・スクール研修会

6月8日（水）と6月14日（火）、雫石町中央公民館で、町内各小中学校の学校運営協議会委員を対象としたコミュニティ・スクール研修会が行われました。秋田県生涯学習センターの皆川雅仁氏を講師にお招



6月8日、雫石小・西山小・御明神小

きし「コミュニティ・スクールの意義～学校運営協議会の役割と責任～」についてご講義いただきました。

その後、『ふるさと雫石への誇り

と愛着をもつ子どもに育てるために、私たちに出来ることは何か』をテーマとした演習（模擬熟議）が4人ずつのグループで行われ、それぞれが思う雫石の誇れることや、愛着を感じることにについて意見交流を行いました。参加者は、コミュニティ・スクールは、子どもたち、学校、地域の活性化につなげることができる有効なツールであることを学びました。これまでの学校と地域のつながりのほとんどは「支援」であることも分かり、「連携」、「協働」との違いについても具体的に示されました。



秋田県生涯学習センター 皆川雅仁 講師



6月14日、セツ森小・御所小・雫石中

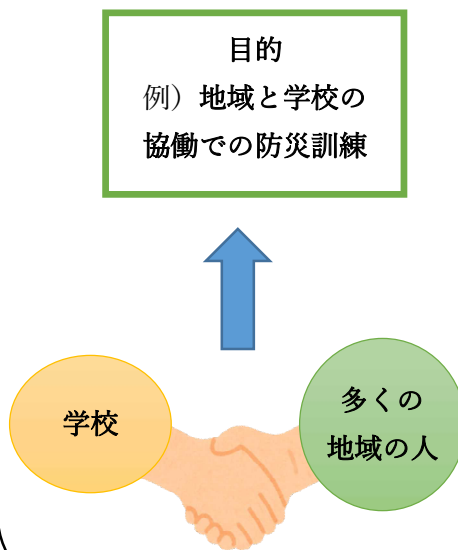
地域・学校支援

- ・地域の方が学校に来て子どもたちに教えながら活動する。
- ・地域の為に学校が活動・支援をする。
- ・必要とするときに、支援を行う。



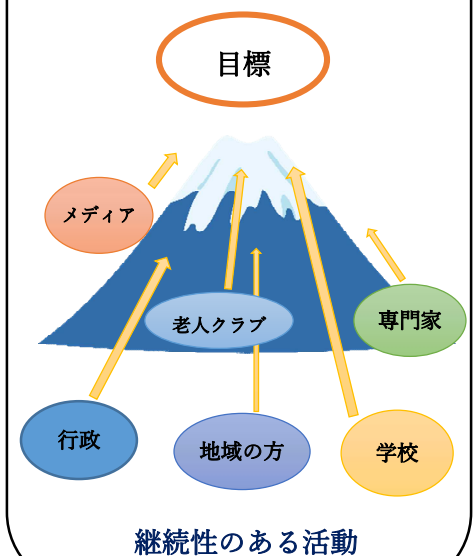
地域と学校の連携

- ・地域と学校が同じ目的（イベント等）のために一緒に活動する
- ・活動を終えるまでの期間の連携



地域学校協働活動

- ・同じ目標を共有した学校や地域の多くの人や団体が異なる役割、時期、速度で活動し、大きな山の頂上（目標）を目指す



コミュニティ・スクール意見交流会

コミュニティ・スクール意見交流会

2月13日（月）、中央公民館で町内学校を対象にコミュニティ・スクール意見交流会が開催されました。講師に秋田県生涯学習センター社会教育主事の皆川雅仁氏をお呼びし、今年度のコミュニティ・スクールの取組について、各校の実践発表と意見交流が行われました。参加した委員からは「他の学校の様子を知ることができて良かった」と感想が述べられました。



皆川雅仁氏 助言(抜粋)

◎コミュニティ・スクールについて

学校運営協議会は議決機関です。学校運営協議会の前に、多くの住民の意見をもらう。その話し合いは「熟議」でおこなう。「熟議」は答えを出す必要はない。多くの意見をだし目標共有する。参加者を入れ替えて行う。

各CSは地域も児童生徒も先生も違うので、自分たちの方向性をさがす必要がある。「熟議」は普段言えないことを言う。CSを作ることが目的ではなくツールである。学校と言う利害性の低い組織を通して、多くの人が協働する仕組み。

◎各小中学校への助言

(1) 雫石小学校

現在行っている活動に付加価値を付けるかが課題。雫石地区は資源が多く可能性がある。

(2) セツ森小学校

「セツ森ワークショップ」は農林課と学校がWIN&WINの関係、それを、どのように地域に波及できるかが課題。企画段階から児童や卒業生を入れる。

(3) 西山小学校

多くの地域連携活動をおこなって素晴らしい。その活動を協働（三方よしの関係）にする。

(4) 御明神小学校

道の駅とのコラボや「熟議」の開催など素晴らしい活動をおこなっている。今後は地域と学校は運命共同体で、学校の活動はいろいろな意見を取り入れ、マンネリ化しないようにする。

(5) 御所小学校

ウォークラリーや蕎麦作りは良い事業と思う。さらに、付加価値をつけることが必要。食は地域にとっても学校にとっても大切なこと。ネットワークを最大限に活かして推進してほしい。

(6) 雫石中学校

やっている事業は中学校としては凄いことを多くしている。さらに推進するために、町に1校の中学校ことから、中学校は小学校の教育課程を見て知る、逆に、小学校は中学校の教育過程を知り、小中一貫の教育を目指すが良い。雫石町の教育目標を「熟議」することを薦める。

多彩な事業に価値をつけるために、生徒＋先輩（高校生・大学生・社会人）を巻き込み、先輩には自分たちの経験を語ってもらう。

令和 4 年度雫石小学校コミュニティ・スクール実践報告集

I 学校運営協議会の開催

第 1 回学校運営協議会 5 月 24 日（火）15:00～16:30

- 今年度の学校経営、行事年間計画、学びフェスト等の説明
- 雫石小学校の地域学校協働活動について説明
- 「地域と学校を結ぶ共通のテーマ」について話し合い
 - ・雫石大火（防災）・青空太鼓・雫石の未来・「よしゃれ」・軽トラ市
 - ・あねさん市・アイディアコンテスト・スクールガードの募集商工会青年部や農協青年部とのコラボなどの意見が出される。
- 今年度の取り組み
 - ・雫石の歴史（防災など）・「よしゃれ」・モノづくり等を中心に検討していく



（雫石小学校第 1 回運営協議会の様子）

第 2 回学校運営協議会 11 月 24 日（木）16:00～17:15

- （1）上半期の学校評価について（自己評価と児童アンケート調査）
 - ・学校経営上の課題について
 - ・復興教育の評価がやや低い⇒雫石大火にからめて地域と連携して災害学習を進めていきたい。大火を体験した人からの聞き取りと資料を探す。
- （2）学校の様子（地域連携）
 - ・人権花植え、ミニトマト栽培、UD 学習、雫石の過去・今・未来、稲作体験、税金、よしゃれ、相撲、青空太鼓。
- （3）国立教育研究所、志々田まなみ氏の講演内容の説明「CS と地域学校協働活動に対するよくある誤解」
- （4）地域学校協働活動と学校運営協議会の進め方について意見交換をする。



（雫石小学校第 2 回運営協議会の様子）

第 3 回学校運営協議会 3 月 9 日 15:30～17:15

- 1 令和 4 年度の学校評価について（副校長）・・・別紙
 - （1）教職員の評価①評価が上がった項目②評価が下がった項目③その他（ノーゲームデーの在り方）
委員から・挨拶しない児童・マスクの対応・一人勉強の内容に課題・持ち物の統一と多様性について
 - （2）学びフェストの評価について
- 2 令和 5 年度の学校経営について（校長）・・・承認
 - ①教職員の強みを出し「チーム雫石小」②児童と教師の相互理解③「地域とともにある学校づくり」
 - ④「ふるさと雫石学習」⑤雫石大火の学習⑥「絆づくり」「居場所づくり」⑦CS（学校運営協議会）の充実

II 特色ある活動

地域の「お宝」を探し、地域の新たな魅力を知る

雫石小学校 4 年生総合「雫石の昔、今、未来」の学習

10/7 《よしゅれ通り方面》

3 人の保護者の方と 8 人の役場職員が、子どもたちの見守りや訪問先との調整役として参加しました。参加した保護者は、教室で行われる授業参観とは違う「校外学習の様子」を知る機会となりました。

10 月 7 日（金）および 10 月 11 日（火）、雫石小学校 4 年生 33 名が地域点検を行いました。学校周辺の地域を点検しながら「地域のお宝」を探し、自分たちだけのガイドマップを作成します。



この辺は昔大火事で焼けたんだよ！



長坂商店

黒電話ってどうやってかけるの？



山定商店は何年前からやっていますか？



人の役に立てるために勉強して

永昌寺



どうして牛を飼っているんですか？



選挙権を持ったら選挙に行って

はい！

雫石町議会の議場を見学する児童

訪問にも快く対応して下さり、たくさんのお話を教えてくださいました。雫石町役場では、普段見ることの出来ない「議場」を見せていただきました。町議会議員と役場の方たちが、雫石を良くするために話し合う場所だと教えていただきました。

子どもたちは、まち歩きで発見したお宝や、地域の方から聞かせていただいた話をもとに、「雫石ガイドマップ」にまとめていきます。

11 日は「役場方面」の探索をしました。牛を育てている方にお話を聞き、雫石町ならではのマンホールなど、児童たちがお宝と思うものを写真に収めて歩きました。地域の方たちは、児童たちの突然の

雫石小4年生が総合学習で地域を巡る

10月7日（金）および10月11日（火）、雫石小学校4年生33名が総合学習を行いました。学校周辺の地域を探索しながら「地域のお宝」を探し、自分たちだけのガイドマップを作成します。

大定商店や永昌寺をはじめとするさまざまな場所で地域の方から話を聞く児童たち。雫石町ならではのマンホールなど、児童たちがお宝と思うものも写真に収めて歩きました。



スクールガードボランティア募集

雫石小学校ではスクールガードボランティアを募集します。スクールガードのみなさんは、子どもの笑顔と安全を守りながらボランティアで活動してくださっています。しかし、最近は高齢化が進み、スクールガードボランティアの人数も少なくなっているのが雫石小学校区の現状です。

地域の子どもの安全を守りたい、子どもと関わりたい、生活リズムを作りたい、学校支援に関心があるという方、スクールガードの活動に興味がある方を歓迎します。



雫小スクールガードのみなさんの声をご紹介します！

駅前行政区の活動の様子



駅を利用する人で交通量が多い朝、5人で交代しながら見守りをしています。健康の為にいいし、「頑張ってください！」と声をかけてくれる人もいて励みになっています。

晴山交差点の活動の様子

登下校の時間帯で当番を決めて活動しています。孫がいるから始めたのが、今では生きがいになっています。挨拶をするとちゃんと返してくれる子どもたちで、元気をもらっています。



谷地たえさんの活動の様子



自宅の前を通る集団登校の子どもたちを、挨拶しながら見守っています。きっかけは孫の入学でした。子どもたちの安全を守る為にも大切な活動だと思っています。

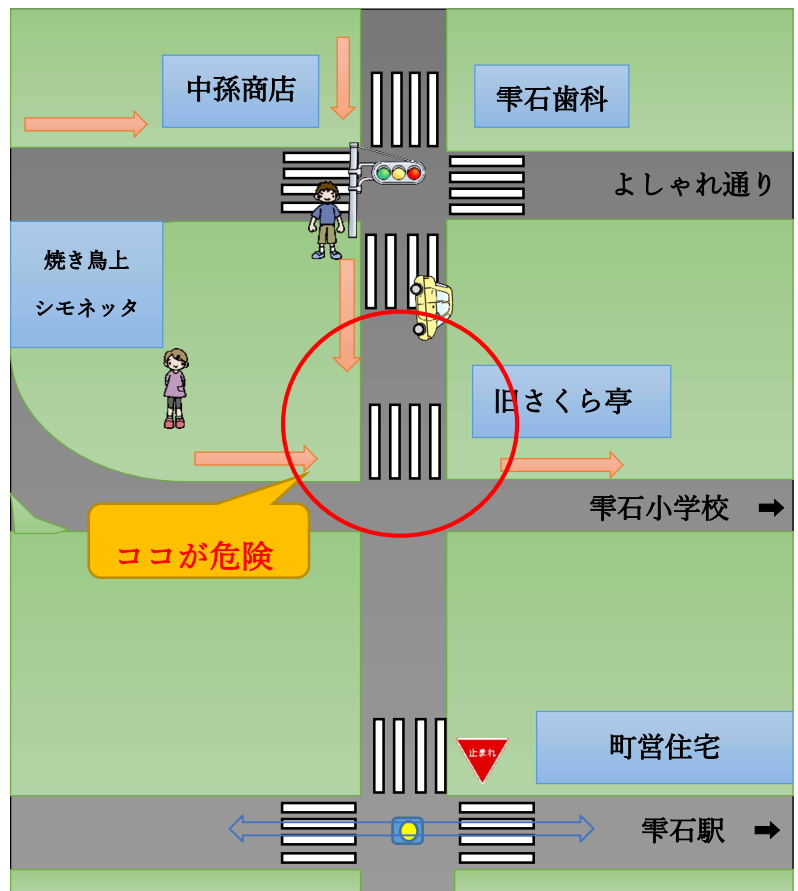
スクールガードボランティアを随時募集しています。子どもたちや地域の方から元気をもらえ、ライフワークにもなる活動です。子どもたちの安全のために、地域で見守っていきませんか？

ここが危ない!!!

登校時の危険箇所!!!

旧さくら亭近くの交差点は、高前田地区、谷地地区、林地区、上町3の児童の通学路になっていて、登校時は50名近くの児童が道路を横断しています。スクールガードリーダーの見廻りでも危険が指摘されている箇所です。特に朝は、駅に向かって急ぐ車も多いので、子どもの安全のために見守りが欲しい場所です。

先日ここで児童たちが横断歩道で止まっていた時、優しいドライバーが児童を渡らせようと車を停止させ、渡っていいよと促してくれました。児童たちも急いでいるドライバーにお先にどうぞとお互いに道を譲ろうとする場面がありました。こんな時に、スクールガードの「渡っていいよ。」という声掛けがあるとスムーズに渡ることができます。地域の子どもと触れ合いながら基本的な交通ルールを教えていくことも、地域で子どもを育てるということだと思います。



登校を見守るスクールガード



横断指導をするスクールガードの皆さん

Ⅲ 成果と課題

1. 成果

- ①「地域と学校を結ぶ共通のテーマ」について、各委員の立場や視点から様々な意見やキーワードが多く出され、今年度取り組みたいことについての確認を委員と共有することができた。
- ②これまで行ってきた教育活動の中で、特に地域との関わりが深い活動について、内容や地域からの支援の受け方について、振り返ることができた。
- ③学校運営協議会について、雫石町教育委員会より「雫石町コミュニティ・スクール通信」を発行していただくことで、保護者や地域の方に本校だけでなく、他校の様子をお知らせすることができた。

2. 課題

- ①教職員による思いやテーマを吟味すると共に、既存の活動をコミュニティ・スクールの視点から再度価値付け継承・発展させていくことが大事である。
- ②様々な教育活動に対する外部協力を依頼する前に、学校として協力を依頼したい学習活動を校内で確認していきたい。それをもとにして、地域学校共同活動推進員をとおした協力依頼を行う流れを確立していきたい。

Ⅳ 次年度の計画

1. 「熟議」による目標の共有

- ①第1回学校運営協議会（5月～6月）

目標（テーマ）の共有

2. 既存の学校支援活動、地域連携活動の価値付け、発展

- ①第1回学校運営協議会（5月～6月）

- ②第2回学校運営協議会（10月～11月）

地域連携活動についての情報共有、振り返り

3. 地域学校協働活動の振り返り、次年度に向けての方向性

- ①第3回学校運営協議会（2月）

令和 4 年度七ツ森小学校コミュニティ・スクール実践報告集

I 学校運営協議会の開催

第 1 回学校運営協議会 6 月 7 日（火）18:30～19:30

- 1、七ツ森小学校の地域学校協働活動について
- 2、地域と学校を結ぶ共通のテーマ」について話し合い
 - ・地域とともに行う金管演奏・金管指導者・七ツ森交流センターの活用・七ツ森塾
 - ・宮沢賢治に係る活動・七ツ森紹介パンフレット・学校の様子を地域へ発信（YouTube など）
 - ・七ツ森の歴史、伝承調べ
- 3、子どもたちが大人になってから戻って来るような活動



（七ツ森小学校学校第 1 回運営協議会の様子）

第 2 回学校運営協議会 10 月 14 日（金）15:00～15:40

- 1、国立教育研究所 志々田まなみ氏 の講演内容の説明
「CS と地域学校協働活動に対するよくある誤解」
- 2、上半期の学校評価（自己評価）について
 - ・学校経営上の課題について
 - ・自己肯定感、フォロワーシップ、ICT 等について
- 3、次年度活動計画・・・事業計画と予算要望
- 4、「地域と学校を結ぶ共通のテーマ」について
 - ・今年度の反省を踏まえて「児童の自己肯定感」を高めたい。地域と学校が一緒になり取り組む。
 - ・第 3 回（2 月開催）の学校運営協議会で具体的な方策を考え検討する。
- 5、その他
 - ・「七ツ森ワークショップ 2022」、清掃ボランティア募集



（七ツ森小学校学校第 2 回運営協議会の様子）

第 3 回学校運営協議会 3 月 10 日（金）10:30～12:00

- 1 地域学校協働活動の報告
- 2 学校評価について
 - ①朝、放課後学習の活用と充実②学力調査の分析とその活用③心の教育の充実④福祉施設との交流⑤キャリア教育「しずくちゃんパスポート」の活用
- 3 令和 5 年度学校経営の重点・・・ 承認
 - ①確かな学力（各種検査で県・全国平均を上回る）
 - ②自己有用感を高める・いじめ、不適応、不登校の未然防止
 - ③七ツ森ふるさとの宝・金管バンド
- 4 七ツ森ワークショップ
 - ・農林課で平成 27 年から実施している。大森山入口付近にベンチの設置とツツジを植栽する活動。
 - ・七ツ森小学校児童、保護者、地域住民の参加。

II 特色ある活動

稲作体験

七ツ森小学校では、5年生を中心として全校児童が米作りに関わっています。学校の近くの、細川喜栄さんの田をお借りして田植え、稲刈り、脱穀を行っています。田植えは4名、稲刈りは10名の保護者や地域の方がお手伝いに参加しました。稲刈り当日は佐々木会長も視察に訪れました。11月16日には収穫したもち米で、食生活改善推進委員会のご協力を頂き、赤飯づくりをしました。収穫されたもち米はお世話になった地域の方に届けました。



さんさ踊り

地域に伝わる伝統芸能の継承や郷土理解を深める活動の一環として七ツ森さんさ踊りに取り組んでいます。元御所さんさ踊り保存会の皆様にご指導をいただきました。

練習の成果は、運動会や学習発表会で披露します。福祉施設での発表も予定していましたが、コロナウィルスの影響で3年連続中止となりました。



スワンスロープ刈り払い

七ツ森小学校の裏山にスワンスロープがあります。冬期にスキー学習ができるよう年2回刈り払いを行っています。PTA会員だけでなく、地域の方も含めてのべ30名の参加をいただきました。

また、スキーシーズン中は地域の方にスノーモービルで雪面をならしていただいています。



おきな草を植える会

雫石と宮沢賢治を語る会9人と3年生8人がおきなぐさを学校の庭に植えました。この行事は宮沢賢治の童話「おきなぐさ」雫石町の七ツ森を舞台にしていることにちなみ、希少なおきな草を将来に残す目的で行われているものです。



学校教育活動の連携

校内マラソン大会の監察 スキー教室指導、二色巻きづくり、登下校の見守り、読み聞かせボランティア等

七ツ森で仕事をしてる方からお話を聞いてきたよ！

七ツ森小学校2年生12名は、9月28日（水）～10月11日（火）の中の3日間、学区内の企業へ見学に行きました。自分たちが暮らしている七ツ森に、素晴らしい仕事をしている人がいることを児童たちに知ってもらいたいというねらいで行われました。創作陶器の十喜（とうき）工房、ローソン七ツ森店、岩手日産自動車（株）雫石店、盛岡セイコー工業株式会社見学を見学し、10月11日（火）には「鉄瓶工房高橋」と「清水機械工業」を訪れました。

鉄 瓶 工 房 高 橋

この日は保護者にも呼びかけ、1名の保護者が見守りを兼ねて参加しました。「鉄瓶工房高橋」は主に鉄びんを作っている工房です。鉄瓶が一個出来上がるのに1～2ヶ月くらいかかると聞いて驚いた様子の児童たち。19歳の頃から鉄瓶を作っているという高橋大益（だいえき）さんの作品を手にとって見せていただきました。

地面が砂なのはなぜですか？



鉄は1500度くらいまで熱くなる。コンクリートだと熱に耐えられないから地面は砂になっているんだよ！

鉄瓶に色を塗るのに漆を使っているよ。錆びにくくする効果もあるよ



高橋さんの作品に興味津々の児童たち

清 水 機 械 工 業

「清水機械工業」はエンジンなど、人の手では作ることができないようなものを色々な機械を使って作っています。七ツ森小学校のPTAでもある清水英明（えいめい）さん指導の下、児童たちはブックエンド作り体験や、塗装体験、モーター操作体験を行いました。児童たちは、普段見かけることのないモノや機械に触れ、夢中で体験していました。清水さんはレーザー加工で作成した手作りキーホルダーを児童にプレゼントしてくれました。

機械を使えば鉄だって簡単に曲げることが出来るんだよ！



普段は塗料で吹き付けますが、今日は水で塗装体験をしました！



リモコンで船を動かしてカッコいい！

美しく心地よい七ツ森森林公園へ、七ツ森小児童と地域住民でツツジ 100 本を植栽 2022 七ツ森ワークショップ開催

11 月 26 日（土）、七ツ森小学校の児童（有志 11 名）が、「七ツ森ワークショップ」に参加しました。この日は行政区長や、森林関係者、七ツ森小学校学校運営協議会委員などおよそ 50 名が集まり、ヤマツツジの植栽を行いました。

七ツ森小学校の学校運営協議会では、「児童の自己肯定感を高める為にどんなことができるか」を地域と学校の共通のテーマとして話し合いをしました。町の農林課



この時期に植えると、霜柱で浮いてくるので、しっかりと踏み固めることを教わりました

から「七ツ森ワークショップ」の提案があり、児童と地域の方が植樹したツツジの花が人々に癒しを与え、大人になっても故郷を誇りに思う活動になると、学校運

営協議会として共催することに決めました。

荒木田校長先生は、七ツ森小学校には学校林がないので、児童が森林について学ぶ機会になって欲しい。来年度からは学校運営協議会の軸となる活動として参画していきたいと話します。七ツ森小学校は5月「宮沢賢治を語る会」のみなさんと、賢治作品にも登場する「おきな草」を植える活動も行っています。児童の学びにもなり、地域の自然・景観を守り育む活動になっていくことが期待されます。



6 年 いわいけん 岩井慧杜さん



5月～6月に④号線沿いに、赤色、朱色、白色のヤマツツジが開花します



七ツ森ワークショップとは

雫石町と岩手県緑化推進委員会雫石支部が、住民と一緒に雫石の森林資源を守り、森林を育てるため、6年ぶりに七ツ森森林公園入口付近に「ヤマツツジ 100 本」の植栽を行う「七ツ森ワークショップ」を開催しました。これは雫石の豊かな森林資源を次の世代に引き継いでいくための取り組みです。

七ツ森は宮沢賢治の文学作品のゆかりの地のひとつとして平成 17 年 3 月に「イーハトーブの風景地」として国の名勝に指定されました。住宅地にも近く国道 46 号線に面していながら国の名勝のひとつにもなっている七ツ森は町民の財産です。

営協議会として共催することに決めました。

成果と課題

○成果

- ・ 学校運営協議会のより具体的な目的や意義（自己肯定感の醸成）について確認し、共有することができた。
- ・ 柱となる活動〈七ツ森ワークショップへの参加〉を設定することができた。

○課題

- ・ 柱となる活動（七ツ森ワークショップ）の具体的な企画と立案
- ・ 地域学習に協力をいただける人材の発掘
- ・ 負担、多忙につながらない取り組み方や活動のあり方の検討

IV 次年度の計画

地域、学校の共通のテーマとして「自己肯定感」を高めたいという思いを確認した。農林課で開催している「七ツ森ワークショップ」とタイアップし、七ツ森の自然保護、つつじの植栽活動をメインの活動に据え、故郷の役に立っているという意識を持たせつつ、自己肯定感・自尊感情を高め、故郷を愛する気持ちを高めていく。

5月 第1回学校運営協議会

さんさ踊り

おきな草を植える会

6月 七ツ森ワークショップ関連学習

田植え

スワンスロープ刈り払い①

9月 第2回学校運営協議会

スワンスロープ刈り払い②

校内マラソン大会

11月 七ツ森ワークショップ

稲刈り・脱穀

赤飯づくり

3月 第3回学校運営協議会

随時 登下校の見守り、読み聞かせボランティア

令和 4 年度西山小学校コミュニティ・スクール実践報告集

I 学校運営協議会

第 1 回学校運営協議会 6 月 2 日（木）18：30～20：00

- (1) 今年度の学校経営等について
- (2) 西山小学校の地域学校協働活動について
- (3) 「地域と学校を結ぶ共通のテーマ」について話し合い
 - ・地域学校運動会・敬老会・学習発表会と地域のコラボ
- (4) 地域の方々が学校に集まる手立てについて
 - (地域の会議や行事を学校でおこなう)
 - ・家庭科室の活用（セキュリティの課題あり）
 - ・旧学童の建物の活用



(西山小学校第 1 回運営協議会の様子)

第2回学校運営協議会 11 月 9 日（水）14：00～16：10

○授業参観実施

- (1) 1 学期学校評価（職員・保護者評価）・学校経営の成果と課題
- (2) 地域学校協働活動について
 - (現在の地域連携を地域学校協働活動へ発展拡大させるためにはどうしたらよいか)



(西山小学校第 2 回運営協議会の様子)

ア、上半期の活動について

- ・15の活動で学校支援（米作り・苗植え、読み聞かせ、陸上教室、花壇、学期末清掃、着衣水泳、1年生見守り、ICT 授業補助、キャップハンディ・点字手話、環境学習、地区点検、ピアノ伴奏、伝統芸能、ミシン補助、傾聴活動）

イ、岩手大好きクラブ（地域の方から学ぶ）

- ・4回実施（ジェラートづくり、記者に学ぶ、グランドセイコー見学、フラワーアレンジメント）

ウ、「地域と学校を結ぶ共通のテーマ」について

- ・次年度は「防災」をテーマに地域と学校で協働していきたい。特に岩手山の噴火対策について委員からさまざまな意見が出される。

第 3 回（2 月開催）の学校運営協議会で具体的な活動を検討する。

第3回学校運営協議会 2 月 22 日（水）13：30～15：00

- (1) 学校評価について ①教職員の評価②児童評価③学びフェスト（保護者）評価
- (2) 学校経営の成果と課題

①授業改善（集中力の高まり）②いじめの減少③肥満防止対策④教職員の退勤時間が早くなる

- (3) 次年度の学校経営の重点

ア、次年度学校経営の方針について・・・承認（地域に助けられ、人を大切にする学校）

①確かな学力②特別支援教育の充実③コミュニティ・スクールの推進

イ、全国火山砂防フォーラムについて

日時 令和 5 年 10 月 19 日・20 日 雫石中央公民館で開催

内容 ①パネルディスカッション②火山現地見学③研究発表（西山小学校 6 年生発表）

- ・児童の考えを大切にしたい・地域の魅力を発信・岩手山の恵み

※学校と地域が協働して研究・発表。

II 特色ある活動

1 学校運動会と地区運動会のコラボレーション

西山小運動会 地域で企画の「防災」種目を実施！

5月21日（土）西山小学校運動会のチャンスレース3種目で地域の方々が考案した種目が実施されました。事前の準備から当日の運営やマイクパフォーマンスまで、地域の方が行いました。

テーマは「防災」。競技を通じて防災を学び、児童と地域の方々がふれ合う楽しい時間でした。

5.6年種目・・・「探せ！ピンチの時のお助けマン」

災害時、必要な人材を来場者の中から探して一緒にゴール

3.4年種目・・・「さあ出動！未来の消防士たち」

バケツ消火訓練をイメージしたレース

1.2年種目・・・「防災クイズあなたはどっち！？」

防災にちなんだ〇×クイズに答えてゴール



「さあ出動！未来の消防士たち」

地域運動会と学校運動会の協働の在り方については今後も話し合い

していくことが重要です。先生方の準備や指導にかかる時間の軽減にも繋がったことと思います。

2 地域の方々による支援ボランティア ～地域ぐるみの子育てを～

地域のみなさん、一緒におそうじしませんか？

西山小学校は、7月11日（月）から7月13日（水）の3日間、期末清掃を地域の方と一緒に行いました。統合やコロナ感染症の影響で、なかなか学校に来る機会のない地域の方から「子どもたちと触れ合いたい」という声を受け、学校が地域に呼びかけ実現しました。地域に開かれた学校、地域ぐるみで子どもを育てていくコミュニティ・スクールの取組として行われ、子どもたちは地域の方に元気を与え、子どもたちも地域の方から大切に愛しい存在だと思われていることを感じる活動となりました。



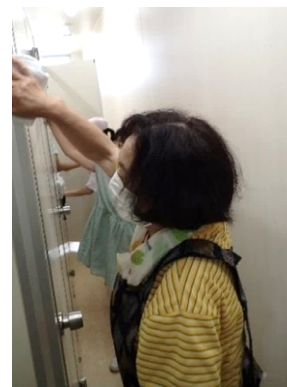
物をよけるとゴミがあるねえ！

上長山地区、下長山地区、西根地区から延べ11名の方が来校し、1～6年生で構

じょうずに雑巾しぼれたね！



成された縦割り班の中に入って、清掃を行いました。3日間活動を行った佐々木啓子さんは、「掃除の手順を上の学年の子が色々教えてくれて助かった。〇〇君のおばあちゃんだ！と気付いて声をかけてくれた子もいたよ」と汗を流しながら話してくれました。



ICT学習とシニアスマートホン教室のコラボ

～地域の方と一緒に学ぼう～

9月30日（金）、西山小学校3年生（21名）は外国語学習の中でタブレットを使用した学習を行いました。この日は西山公民館事業、シニアスマートホン教室の受講生3名がボランティアとして補助に入ってくださいました。児童がPC操作につまずいたとき、操作のやり方を教えて下さったり、一緒に悩んだり、ローマ字入力を見守ってくだ

「ん」は「nn」って入力するんだよ！



ださいました。6年生に続き、2度目のボランティアとなっ



画像の貼り付けを押してごらん？

た下長山地区の湊雅之さんは、児童にやさしく声をかけながら検索した画像の貼り付けを一緒に行いました。ボランティアの皆さんはあちこちから声がかかり、フル回転で補助を行いました。2時間の授業の中で、好きな色、好きな食べ物、好きなスポーツの画像を検索・貼り付けできた児童は、とても誇らしそうでした。

1年生見守りボランティア ～「やまびこ会」の皆さん～

9月5日（月）13日（火）20日（火）の3日間、学校支援員が在の時に、傾聴ボランティア「やまびこ会」の方々に来ていただき、年生の授業における支援をしていただきました。子ども達のそばで見つて下さったり、学習のアドバイスをしてくださったりしました。また、いいところを見つけて積極的に褒めながら優しくサポートしていただいたおかげで、1年生の子ども達は、安心して授業に臨み、普段に増して意欲的に学習に取り組むことができました。



不
1
守

た
も

本の楽しさを！読み聞かせボランティア「なつめお話の森」

コロナ感染防止のため、2年間中止していた「なつめお話の森」の皆さんによる朝の読み聞かせを、6月から再開しました。毎月2回、偶数・奇数学年に隔週で来ていただき、3学期からは、月2回程度全学年に入って実施しています。子ども達は、読み聞かせをとても楽しみにしており、ボランティアの方々の読む本にじっと耳を傾けてます。ボランティアの皆さんは、本の楽しさを知ってもらおうと、毎回工夫を凝らしながら読み聞かせをして下さっています。



5. 6年生 家庭科「ミシンボランティア」

11月14日(月)から17日(木)まで、5、6年生の家庭科の授業で町内在住の高橋安子さんと、山口かやさんがミシンボランティアとして支援を行いました。

5年生20名は、エプロン作りに取り組みました。初めてミシンに触れる児童に使い方を丁寧に教え、予定された時間内で、エプロンを仕上げる事が出来ました。

6年生27名はナップザックを制作しました。下糸の補充や、糸の絡まりを直していただき、スムーズに授業を進めることができた6年担任の和山真一先生は「本当に助かりました!」と感謝を伝えました。



4年生「ピアノ伴奏ボランティア」

11月11日(金)の小中音楽会、11月12日(土)の学習発表会で4年生が合唱を発表し「アンパンマンマーチ」「しあわせになあれ」の2曲の伴奏を西山地区在住の笹川純子さんにお願ひしました。笹川さんは10月中から4年生児童と一緒に練習を行い、歌と伴奏が一体となるように取り組みました。今年はマスクを装着して歌うという形でしたが、4年生の透き通った歌声が会場を包みました。



学習発表会で伴奏する笹川さん

3 地域ふるさと学習 ～岩手大好きクラブ

地域のみなさんが先生「岩手大好きクラブ」始動!

今年度4年生以上の児童が行うクラブ活動に「岩手大好きクラブ」を設けました。「**雫石が好きな子を育て、将来雫石で活躍する子どもを増やしたい**」という学校と地域の願いを共有することを目指します。

活動内容は、西山地区又は近隣から「地域の先生」に来校いただき、お話を聞き、体験活動を行います。

雫石で起業
した方

雫石の企業で
働く方

雫石の地理・歴史
に詳しい方

伝統工芸に
携わる方

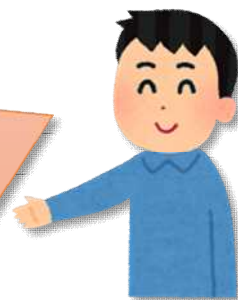
農業・林業に
携わる方

議員の方

郷土料理を
伝えたい方

昔語り・昔遊び
を伝えたい方

このような方々にお声をかけることがあるかも知れません。
その際にご協力よろしくお願いします。



問い合わせ
西山小学校 佐藤賢治
019-692-2224

「松ぼっくり」ジェラートの新メニュー開発にチャレンジ・

7/13 地域の先生から学ぼう! 西山小「岩手大好きクラブ」発足

西山地区をはじめとする町内各所から「地域の先生」に來校いただき、地域について学ぶ「岩手大好きクラブ」が西山小で発足しました。第1回目は、「松ぼっくり」「産直松の実」の松原永樹さんと宏樹さんを講師に、起業の経緯などのお話を聞かせていただきました。松ぼっくりアイスの新商品試作会も行われ、児童は思い思いの味を試作しました。



松原永樹さん（写真右）と宏樹さん（写真左）



色々なトッピングを試しました♪

後半は松ぼっくりのアイスの試食会が行われ、ミルクのジェラートをベースに味噌・醤油・酢・ドライフルーツ・ベビースターラーメン・木苺ジャム・ドライフルーツ・ナタデココ等の中からトッピングを選び、思い思いの味を試作しました。家で家族と一緒に新商品のアイデアを考えて持ち寄り、1位になったものは、給食の時に提供されたり、松ぼっくりの店頭で新商品として販売されたりするかもしれないと担当の佐藤賢治先生に言われ、

子ども達もやる気満々で試作していました。醤油をかけて試食した6年長澤風香さんは、もう一味何か足せば商品として出せる！と考えを巡らせ、5年羽上千春さんは、味噌とベビースターラーメンを組み合わせ、『「松ぼっくり」で売ったらこれを食べる！』と大絶賛でした。



フラワーアレンジメント講座

11月9日(水)、町内の花卉（かき）生産者青年部「hana 会んだんだ」の方を講師に迎えフラワーアレンジメントに挑戦しました。今回はフラワーアレンジメントをやってみたいという子どもたちの願いから実現し、「花に触れる」をテーマに、自由にアレンジを体験しました。家で花をどう飾ったらいいか、花を大事にするにはどうすればいいか質問をする児童もいて、花に興味を持つきっかけになりました。講師の茅橋寿男さんは「花に触る機会を増やし親しんでほしい」と話します。完成した作品は、11月12日(土)の学習発表会で展示されました。



「hana 会んだんだ」の細川梨良さん、米澤広志さん、茅橋寿男さん(後列左から)



華やかな作品に足を止める来校者

「岩手大好きクラブ」のその他の活動

- ・記者に学ぶ … 岩手日報の高橋記者にインタビュー
- ・グランドセイコー見学 … 絵描き屋「そのだつくし」さんを迎えて
- ・車椅子バスケットボール体験 … 「ラッセル岩手」所属の大和田洋平さんから

地域学習「雫石めぐり」～ 学習発表会

3年生21名は、見学学習を通して、自分たちの住む地域について学びました。第1回「西山めぐり」（6月30日）では、案内役の佐藤賢治先生（学校支援員）から出された「雫石町は、なぜ「しずくいし」という名前になったのでしょうか？」という問いをきっかけに、雫石神社（雫石たんたん）～岩手山神社～玄武洞～葛根田水力発電～弘法桜を巡り、地域の方々から歴史や文化について学びました。

第2回「雫石めぐり」（9月20日）では、小岩井農場、民俗歴史資料館、道の駅「雫石あねっこ」を見学し、地域の施設を巡りました。

11月の「学習発表会」では、2回の地域見学を通して学んだことを、劇にして全校や保護者に伝えました。クイズなどを入れながら工夫して、雫石町の歴史や文化、そのよさを伝えることができました。



4 防災学習 ～全国火山砂防フォーラムと関わって

岩手山の火山活動や火山災害について学ぼう

11月24日（木）、西山小学校5年生と6年生は、小原千里さん（セツ森在住）を講師に、岩手山の火山活動について学びました。

小原さんは県の地域防災サポーターとして活動し、ヘリコプターによる岩手山上空からの観察や、現地での火山活動の調査を続けています。

児童は岩手山をふるさとの山として親しんでいます。岩手山が活火山であることを学び、火山防災について考える機会となりました。後日、児童は地震や火山噴火、水害などの災害が起きた時、どこに避難するか、連絡はどうするかなどを各家庭で話し合い、学校での学びを家族とも共有しました。

12月1日（木）には災害時を想定した引き渡し訓練が行われ、有事の際の学校と家庭の連携を改めて確認しました。来年10月、雫石町を会場に「全国火山砂防フォーラム」が開催され、西山小学校の児童の発表も予定されています。西山小学校学校運営協議会でも「防災」について、地域との連携・協働に向けての意見が出されました。これから「防災」を学校と地域の共通のテーマとして取り組んでいくことが期待されます。



小原千里さんから噴火の仕組みを学ぶ

～良い地域に良い子どもは育つ～

にしやま住民意見交換会

1月22日（日）、西山公民館で「にしやま住民意見交換会」が開催され、住民や西山地区に関わる方たちが「西山地区でやった方がいいこと、したいこと」についてアイディアを出し合いました。西山地区では令和2年、中学生以上全員を対象にアンケートを取り、そこで出た地域の課題や西山のこれからを地域みんなで考えていく地域運営組織の設立が決まり、令和5年春に始動します。

この日は、西山小学校の阿部校長先生、佐藤賢治先生も参加し、西山小として地域と一緒に出来ることについて思いを巡らせました。阿部校長先生は「小学校と地域で防災について一緒に考えていきたい」と呼びかけ、参加した中学生からは「子どものスポーツクラブを活性化させたい！」「昔遊びなどで、お年寄りと子どもたちが交流する場があるといい」などの意見が出され活発な交流会になりました。



中学生も参加し、自分の意見を発表しました



出た意見を壁に貼り、全員で共有しました

西山カルタで地域のことを学びましょ！

2月8日（水）、西山小学校「岩手大好きクラブ」は「ゲームクラブ」と一緒に西山カルタを体験しました。西山カルタは今から20年くらい前に「ふれあいサロン西山」のおじいさんおばあさんたちが詠んだ川柳を読み札として作成したものです。当時ふれあいサロンのお世話をしていた西山在住の藤原恒子さんが、カルタにまつわるエピソードを交えながら読み手として参加しました。



読み札を読む藤原さん



この日は雫石町社会福祉協議会から4セットをお借りし、児童は4つのチームに分かれて枚数を競い合いました。西山や雫石のことを題材にしたものが多く、児童は遊びながら地元について学ぶ時間になりました。

Ⅲ 成果と課題

1 成果

- (1) 前年度から地区運動会実行委員会と協議を重ね、学校運動会の中に実行委員会考案の種目を実施できたことは、児童と地域の交流を持つとともに防災意識を高めることができ、大変有意義であった。また、運動会の種目を丸ごと地域の方々が担うという方法は、今後の学校と地域の連携のあり方の一つとしてよかった。
- (2) 学校のさまざまな教育活動において、多くの地域の方々に支援して頂いたことで、学習や諸活動を円滑に進めることができた。また、児童と地域の方々とふれあう貴重な機会となり、楽しく交流を図りながら、学校と地域のつながりをより強くすることができた。
- (3) 地域人材の発掘、連絡調整など、雫石町の地域学校協働活動推進員が積極的に動いてくださったことで、地域による教育支援をスムーズに進めることができた。
- (4) 地域を知る・かかわる・体験する学習を通して、地域への関心を高めることができた。特に、今年度「岩手大好きクラブ」を新たに立ち上げ、地域にはさまざまな方々が活躍し頑張っていることや地域のよさ等について、地域の方々と直接ふれあう中で学ぶことができた。

2 課題

- (1) 学校と地域の運動会の進め方や連携について検討していく。
- (2) 地域素材や人材の発掘を今後さらに進め、学校ボランティアを通して教育活動の充実と、地域とともに歩む学校として連携を強化していく。
- (3) 伝統芸能の継承について、地域の指導者に積極的に支援していただく。
- (4) 「全国火山砂防フォーラム」に向けての取組を通して、防災教育の充実を図っていく。
- (5) 地域ボランティアの方々の休憩する場所を確保していきたい。

Ⅳ 次年度の計画

1 次のようなテーマ（重点）に沿った活動を推進していく。

【テーマ】 「地域とともにある学校づくり」

【重点】 ・地域の方々との交流を図るとともに、郷土を理解し郷土に誇りをもつ児童に育てる。
・岩手山や火山防災の取組等について理解を深めるとともに、自分たちにできることを考え実践しようとする児童を育てる。

2 次のような活動を中心に進め、児童の意識を高めていきたい。

- ・防災教育（全国火山砂防フォーラム） ・合同運動会 ・地域ふるさと学習
- ・伝統芸能継承活動 ・環境美化活動 ・米づくり収穫体験
- ・里山教室（学校林の見学） など

令和 4 年度御明神小学校コミュニティ・スクール実践報告集

I 学校運営協議会の開催

第 1 回学校運営協議会 5 月 11 日（水）18:30～20:00

- 1、今年度の学校経営、年間行事計画、まなびフェスト等の説明。
- 2、コミュニティ・スクールの取組「環境教育を軸にふるさとの良さを学ぶ」の説明。
- 3、「地域と学校を結ぶ共通のテーマ」について話し合い。
 - ・チョウセンアカシジミ観察保護・竜川水生生物調査・アルミ缶回収
 - ・春木場駅清掃・橋場の文化祭・御明神・橋場地区盛り上げ隊(仮)
- 4、今年度の取組
 - ・地域学校協働活動は道の駅とのコラボ「御明神・橋場地区盛り上げ 隊(仮)」
 - ・「チョウセンアカシジミ」の観察保護活動を重点に取り組む。



（御明神小学校第 1 回運営協議会の様子）

第 2 回学校運営協議会 11 月 22 日（火）14:00～16:20

○授業参観実施（世代間交流会・学級ごとの感謝の会）

- 1、上半期の学校評価（自己評価）と学校経営上の課題について
 - ・アンケート結果から、児童の自己評価は高い、家庭でのメディアルール、児童の言葉遣い等が話し合われた。
- 2、「道の駅あねっこ」との地域学校協働活動について
 - （1）児童の「道の駅あねっこ」との地域学校協働活動のアイデアの紹介
 - ・「道の駅あねっこ」商品の紹介（PR のポップの作成）・「道の駅あねっこ」に雪像をつくる、等。
 - （2）地域住民の「道の駅あねっこ」との地域学校協働活動のアイデア紹介について
 - ・児童のアイデアを活かした商品開発、伝統芸能の発表、化石堀体験、秋の収穫祭、チョウセンアカシジミの里を作る、キャンプ場で学校林の間伐材を活用等、35 のアイデア。
- 3、「道の駅あねっこ」との地域学校協働活動の承認
 - ・地域学校協働活動は「道の駅あねっこ」と学校とで協議して、児童のアイデアを基本に地域アイデアを活かして実践できることから推進していくこととなる。



（御明神小学校第2回運営協議会の様子）

第 3 回学校運営協議会 R5 年 2 月 27 日（月）15:45～17:00 実施予定

- 1、令和 5 年度の学校経営の重点・・・承認
 - ・経営の重点（学校教育目標等）・学びフェスト
- 2、学力（全国学調・県学調・CRT）について
 - ・せいわ病院医師の講演会「ゲーム依存」を期に児童のゲームの時間が減っている。
- 3、今年度の学校運営協議会の内容
 - ・道の駅とのコラボ、「熟議」の開催・チョウセンアカシジミ保護活動
- 4、次年度の学校運営協議会の内容
 - ・道の駅とのコラボの推進・「熟議」で地域の方々との意見交流・チョウセンアカシジミが繁殖する「デワノトネリコ」の植樹・地域学校協働活動を近隣の学校と合同でおこなう・地域と一緒に茶道教室を実施する。

II 特色ある活動(地域学校協働活動への取組)

チョウセンアカシジミ保護活動の先進地域視察

6月28日(火)、御明神小学校の中崎光則校長らは、山形県川西町立大塚小学校にチョウセンアカシジミ保護観察の視察を行った。コミュニティ・スクールの地域学校協働活動としての取り組みのための視察である。

大塚地区には約170カ所のチョウセンアカシジミの保護箇所があり、チョウセンアカシジミ保護活動を中心に町づくりをしている。大塚小学校は平成8年の創立100周年時に、地域のすばらしさや命の大切さを学習するためにチョウセンアカシジミの保護観察活動を始めた。平成16年には「地域環境保全功労者環境大臣賞」、平成28年には「林野庁長官賞」など多数受賞されている小学校である。



あっ！ピンク色の卵だ！！

【視察内容】

①授業参観 3年生の「チョウセンアカシジミ成虫観察会」

②チョウセンアカシジミの保護活動の様子や予算的措置について

講師 「チョウセンアカシジミを守る会」川西町代表 相馬孝一郎 氏

③地域とのかかわりについて

講師 地域学校協働活動推進員 瀧澤 章 氏

チョウセンアカシジミの保護活動の方法や地域との繋がりについて学ぶことの多い視察となった。

チョウセンアカシジミ観察会 in 運動会

5月21日(土) 御明神小学校運動会の休憩時間を利用して、地域の方々や保護者を対象にチョウセンアカシジミの観察会を開催した。町内の学校では、チョウセンアカシジミが生息しているのは御明神小学校だけである。昨年までは学校の4年



こんなに小さいのね！

生だけで保護観察を続けていたが、今年度から地域と学校の地域学校協働活動として取り組みたいと考え、今回の観察会を行った。

NP0 岩手県環境カウンセラー協議会の高橋良和さんを講師に、学校敷地内にあるデワノトネリコの木を観察して、卵の脱け殻の観察やチョウセンアカシジミが生息していくための環境保全等について学んだ。



地域学校協働活動に向けての事前学習

7月20日（水）御明神小学校6年生16名は総合の学習で「橋場・御明神を盛り上げるために、自分たちにできること」を考える授業を行った。この日は、校長先生が授業を行った。



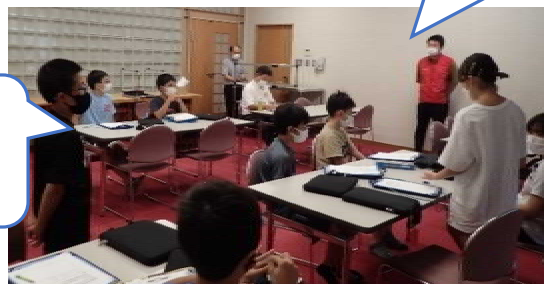
子どもたちは、自分たちの橋場・御明神地域の自慢できるものについて考え、「雫石あねっこ、自然、ネージュ（パン屋）、御明神夏祭り」など、思い思いの意見を出した。次に、班ごとに分かれ「どこを盛り上げていきたいか」話し合った。出し合った意見から、班としての意見を決め、選んだ理由と一緒にクラスで発表した。

道の駅雫石あねっこ訪問 ～橋場・御明神地区を盛り上げたい(仮)～

8月25日（木）、御明神小学校6年生16名が、道の駅「雫石あねっこ」を訪問し、産直や温泉施設、蕎麦屋、キャンプ場を見学した。その後、道の駅を活用して地域を盛り上げるため、道の駅の職員から話を聞いた。子どもたちは佐々木大（ゆたか）駅長に道の駅の利用状況や、産直で売られている商品についてたくさん質問した。今後、児童は調べたことをもとに、アイデア作りに取り組む。並行して、地域の大人たちも「道の駅コラボチーム」を作り、アイデアを考える予定。子どもと大人が出したアイデアが学校運営協議会で承認を受けた後、道の駅雫石あねっこと協議し、実践活動を行っていく予定である。どんなアイデアが出されるのか楽しみである。

「雫石」と地名の入った土産物がよく売れます

売店で人気なのは
どんな商品ですか



道の駅雫石あねっこのコラボ

コミュニティ・スクールの取組として6年生が行っている「道の駅あねっこを盛り上げよう」の授業が、

具体的に進み始めた。11月25日（金）には、自分たちで商品をPRするためのアイデアを考えるべく、トマト麺の試食を行った。30日（水）には雫石牛ソーセージを、その後も甘酒、菜の雫、わさびねがぁーと試食し、アイデアはどんどん膨らんでいる。



地域とコミュニティ・スクール(CS)との連携・協働に向けての一步

御明神小学校 CS と地域との連携・協働を模索するため、中崎光則校長と下川恵司社会教育指導員は 8 月 31 日(水)、御明神地区地域運営組織設立準備委員会に参加した。



持続可能な地域社会づくりを目指す「特定非営利活動法人 都岐沙羅（つきさら）パートナーズセンター」の齋藤アドバイザーからは、今後の座談会の視点として CS や生活支援協議団体との協働が大事であることが話された。中崎校長は 9 月 10 日（土）に開催される「御明神みらいづくり座談会」にも参加する予定。

地域で子どもたちを育むコミュニティ・スクールの推進は、地域づくりにも役立つものと感じた。

「御明神の自慢できるものを訪ねて」～大昔に想いを馳せながら～



また、見つけちゃった～月



見て見て！貝が入ってるよ！

9 月 5 日（月）、13 日（火）の二回、御明神小学校 3 年生 9 名は雫石巡りに出かけた。滴石史談会の佐藤賢治さんを講師に迎え、9 月 5 日は上野馬頭観音堂、からかさ松、橋場御番所跡、多賀神社等を訪れた。橋場地区での化石採りでは、雫石は大昔海だったことを証明するように、二枚貝の化石が面白いように採れ、あちこちから歓声が上がった。多賀神社では、宮司の山村正昭さんが神官用白衣で児童を出迎えてくださり、多賀神社が建立された経緯からお話をいただいた。神社の境内には町の天然記念物に指定される「多賀神社の姥木」がそびえていて、9 名の児童が手を繋いでも回りきらないほど太い幹を体感した。

御明神の地名は、近江明神が由来なんですよ



手をはなさないで～っ！！



「地域学校協働活動」第1回「熟議」開催

11月16日（水）18:30から御明神地区住民等有志の方々による地域学校協働活動「道の駅あねっこ」とのコラボ事業推進のための「熟議」を開催した。

地域の方々の「熟議」の結果、「学校」と「地域」と「道の駅」が協働して行う事業のアイデアが35種類出された。

この後、御明神小学校の学校運営協議会で児童のアイデアとともに提案され、実施していく事業が決定され、本格的に「道の駅あねっこ」とのコラボ事業が推進されていく。



世代間交流会と感謝の会

11月22日（火）、御明神小学校では世代間交流会と、日頃より学校支援でお世話になっている地域の方への感謝の会を授業参観で行った。感染対策をしながら、おうちの方や地域の方が児童と一緒に遊び、学び、教えながら交流した。

1・2年生はけん玉やこま、メンコなどの昔のおもちゃ、自分たちで見つけた秋の素材を使った手作りおもちゃでおうちの方と一緒に遊んだ。

参加した地域の方は、自分たちが子どもの頃の遊び方を教えながら児童と交流した。

1・2年生「いろいろなあそびフェスティバル」（生活）



児童たちが工夫して作ったおもちゃ遊びは大盛況！

3年生「昔の道具を調べよう」（社会）

私が子どもの頃は3輪自動車が走っていたんですよ



3年生は地域めぐりでお世話になった佐藤賢治さんやおうちの方から、子どもの頃の道具について教えていただいた。

4年生「えんぴつけずりにチャレンジ！」（総合）



親指で刃を押しながらせずるんだよ！

4年生は小刀を使い、えんぴつけずりに挑戦した。この交流体験を通して、刃物の扱い方も学ぶことができた。

5・6年生「縄ないにチャレンジ」（総合）

5・6年生は縄ないに挑戦した。藁や飾りけに使う材料は「しずくいし語りっこの会」のみなさんが用意し、縄ないのコツを教えてくださいました。昔は縄が滑らないように手に唾をつけてなったそうだが、現在はボールに吸んだ水をつけて行っている。できた縄にほうずきや松ぼっくりなどをあしらひ、正月飾りを完成させた。



ばあちゃん、上手すぎる！



手作りの正月飾りだよ！

商品 PR の POP 掲示 & 「菜の雫」製造工程見学

今年度御明神小学校 6 年生は、御明神・橋場地区を盛り上げるために自分たちに何ができるかを考えました。その結果、「道の駅」というキーワードが挙げられ、「雫石あねっこを日本一の道の駅に！」という意気込みで地域と一緒に取り組んできました。

まず 6 年生は道の駅で販売されている「雫石牛ソーセージ」や、「ワサビネガー」、「温製トマト麺」などの商品を実際に試食し、どうすればお客さんの目に留まるかを考えながら商品を PR するための POP 作りに取り組んできました。2 月 18 日（土）の道の駅リニューアルオープンから子どもたちの POP をメインにしたコーナーが設置されました。



道の駅の産直コーナーにて POP 掲示中

2 月 21 日（火）には、雫石町福祉作業所かし和の郷で雫石の特産品「菜の雫」の製造工程を見学しました。道の駅雫石あねっこで販売されている「菜の雫」は、かし和の郷の利用者が製造を担っています。滝沢京音（けいと）さんは「種の選別や、油の抽出などの一つ一つの作業を見て、たくさんの人の思いが込められて商品になっていることが分かりました」と話し、商品の魅力をより感じる機会になりました。



この日抽出した菜種油は 2 週間後、上澄みを 3 回ろ過して商品になります。



この様子は岩手めんこいテレビ 22 日（水）のニュースでも放映されました。23 日（木）岩手日報、24 日（金）盛岡タイムズの紙面でも詳しい内容が掲載されています。



出来立ての「菜の雫」(作業場にて)



手づくりの「菜の雫」ポップ(作業場にて)

Ⅲ 成果と課題

◎成果

- ・今年度の取組の一つである道の駅とのコラボ「御明神・橋場地区盛り上げ隊(仮)」の活動が推進できたことは大きな成果であった。
- ・「熟議」も開催することができ、学校と地域、道の駅が協働して行う事業のアイデアを出し合いながら進められたことも大きな成果であった。

●課題

- ・学校運営協議会や地域学校協働活動のメンバーを増やし、様々な意見をいただく必要がある。
- ・学校行事や学級の実態に合わせて活動を見直し、学習とのバランスを図っていく必要がある。

Ⅳ 次年度の計画

1 令和5年度の方針

地域とともにある教育活動の推進

2 重点事項

身近な文化や環境に関心を持ち、地域の方々との交流を図り、郷土を愛する心情を育む。

3 実施内容

① 伝統や文化の教育（茶道）

茶道教室を通して、日本古来の文化を学びながら、おもてなしの心、感謝する心、相手を思いやる心を育てる。⇒20年間講師をしていただいた先生から、新しい先生に代わる。地域の方々とも一緒に学習を進めたい。

② キャリア教育

児童一人一人のキャリア発達を支援し、将来の夢や希望を持ち、自分の生き方を考える力を育てる。⇒地域で活躍する方々から学ぶ機会にしたい。

③ 地域学習（道の駅コラボ）

自分たちの住む地域の良さに目を向け、地域の方と協力しながら盛り上げる方法を考える力を育てる。⇒新年度の6年生も、引き続き「あねっこ」とのコラボを行っていきたい。

④ 地域学習（チョウセンアカシジミ・学校林）

身近な環境や環境問題に関する理解を深め、環境保全に参加する態度及び問題解決の能力と実践的な態度を育てる。⇒チョウセンアカシジミの学習を、地域の方々からの協力や他校との交流などを行いながら、広げられるように取り組みたい。

⑤ 地域学習（探検）

自分たちの町の特色ある地形や土地利用の様子、主な公共施設などの場所と働き、古くから残る建造物などについて調べ、地域の様子や地域社会に対する愛着をもたせる。

⇒他校との交流などを行いながら、地域の素晴らしさを共有したい。

⑥ 学習支援（マラソン・スキー）

集団で学習し、指導者から教えて頂くことにより、温かい交流を図ると共に、感謝の気持ちを育てる。⇒雫石の魅力の一つであるスキーを、地域の方々からも支援していただきながら、子どもたちにしっかり身につけさせたい。マラソンへの協力も継続していただく。

令和 4 年度御所小学校コミュニティ・スクール実践報告集

I 学校運営協議会の開催

第 1 回学校運営協議会 5 月 2 5 日（水）18：30～19：30

今年度の学校経営等について

- (1) 今年度の取り組み（昨年度話し合われた「地域と学校を結ぶ共通のテーマ」の中から、次の 3 つを中心に取り組む）
 - ・消防団操法（防災訓練）・大村そば作り ・鶯宿スタンプラリー
- (2) 検討事項
 - ・多くの地域住民がかかわることができる活動等を工夫する
 - ・囲炉裏の活用（囲炉裏サロンなど）学校に人が集まる場所づくりの検討



（御所小学校第 1 回運営協議会の様子）

第2回学校運営協議会 1 0 月 2 6 日（水）18：30～19：05

1 上半期の学校経営について

- (1) 「学びフェスト」や各調査の結果をもとに、今後の活用及び課題と対策について
- (2) 「ふるさと遠足」「マラソン大会」
「学習発表会（堰賛太鼓）」

2 令和 4 年度の学校評価の計画について

- (1) 県の教育振興計画、町の教育振興基本計画を受けて御所小学校教育目標を設定。県の学校教育指導指針、御所小学校まなびフェストから評価アンケートを作成
- (2) 今年度はタブレットや携帯を利用して児童や保護者のアンケート調査を予定

3 学校運営協議会にかかわる活動について

- (1) 「ふるさと遠足」大村の蕎麦打ち体験（2 年）、鶯宿ウォークラリーでの歴史深訪（3 年）
- (2) 「防災学習」消防団の操法見学（全校）、バケツリレー消火（6 年）



（御所小学校第2回運営協議会の様子）

第3回学校運営協議会 2 月 1 7 日（金）1 3：4 5～1 5：4 0（授業参観日に予定）

1. 授業参観（参観）

2. 令和 4 年度の学校経営・教育活動について

- ①学びフェストについて目標値を上回っている②児童は全体的には頑張っている
- ③深刻ないじめはない。④不登校対応について

3. 令和 5 年度の学校経営の重点・・・承認

- ①学力②あいさつ③体力⑤ユニバーサル⑥地域愛の育成

4. 令和 5 年度の学びフェスト

- ①昨年度より高い目標設定値②挨拶を重点（家庭学習・あいさつ・虫歯）

5. 令和 5 年度の地域学校協働活動

- ①ふるさと遠足（そば・ウォークラリー）②操法（消防）



（御所小学校運営協議会の様子）

II 特色ある活動

御所小学校 ふるさと遠足

鶯宿の歴史を探訪、鶯宿温泉ウォークラリー



御所小学校では、統合する前の3学区の奉仕活動を兼ね、ふるさと遠足を行っています。9月6日（火）、1・4年生は町場地区園地、2年生は旧大村小、3年生は鶯宿温泉に行きました。

3年生18名は、鶯宿地区で温泉街の手すり拭きを行った後、鶯宿温泉



目印はあるけど、ここかなあ！？

1950年代(昭和30年代)ころの写真



2022年(現在)の写真



写真の場所、見つけた！！☑️✧

まだらにカ

ウォークラリーをしました。これは昨年度末の学校運営協議会で発

案されたもので、2017～18年に御所地区地域づくり会議

「鶯宿温泉活性化チーム」主催で開催された「思ひ出さんぽ」のイベントをもとにして行われました。学校運営委員が鶯宿温泉開発株式会社に呼びかけ、ウォークラリーの内容を一緒に考え実施されました。当日は、御所地区の12名の民生委員が児童のグループに1～2名ずつ加わり、50年以上昔の写真を頼りに、その面影を探して現在の鶯宿温泉を探索しました。鶯宿地区の川口彌志雄さんは「昔ここに店があったんだよ」「ここは親戚の家だったんだよ」と当時を懐かしみながら児童と歩きました。写真と同じ場所を見つけたら、同じよう写真を撮影してクリアとなります。1時間で全グループが6所全部を探し当てました。

そば打ち体験 in 旧大村小学校

りの盛んな地域で、伝統的にそば打ちが行われています。旧大村小学校収穫市でそば打ち体験の講師もされている村田徹さんが教えてくださいました。この日は前校長の松本洋介先生も古市から駆け付け、大村地区の方や児童と一緒に、そば打ち体験を行いました。



金さんの昔話に聞き入る2年生

た。児童は、講師の方がこねたそばを麺棒で伸ばしたあと、そば包丁で慎重に切りました。切ったそばはお土産として自宅に持ち帰りました。

また、地域に住む吉田金さんから「おだんごころころ」「和尚さんと小僧さん」の昔話を聞きました。金さんの語りに子どもたちは引き込まれていました。最後に児童たちは旧大村小学校の花壇の草とりをしました。学区にある旧小学校で地域の人とふれ合う活動は、郷土愛を育む学習になりました。



太くならないように、慎重に…

に子どもたちは引き込まれていました。最後に児童たちは旧大村小学校の花壇の草とりをしました。学区にある旧小学校で地域の人とふれ合う活動は、郷土愛を育む学習になりました。

御所小学校防災学習 消防団操法見学会

消防団 VS 6年生 バケツリレー消火競争

10月4日（火）御所小学校で避難訓練後、昨年に引き続き、地域の消防団によるポンプ車操法の見学会を行いました。平日にも関わらず、17名の消防団員や雲石分署の消防士、町の防災課が集まり、地域の安全を守る為に活動する姿を児童たちに披露しました。ポンプ車操法では、5名の団員がポンプ車からホースを伸ばし、火元を消火するまでの無駄のない美しい動きを実演しました。ホースの中を水が通り、生き物のように動く様子に低学年の児童から歓声が上がりました。



スタートしました！

息の合った連携で消防団リード！

バケツに入れて、中に入れたボールが溢れ出たほうが勝ちというルールです。スタート直後、消防団は無駄のない連携でリードしましたが、この日に備えて練習してきた6年生は後半一気に

に差を縮め、逆転勝利を収めました。

見学会後、各学年の代表が放水体験を行いました。3年生の照井七海さんは「消防団の動きがぴったりでかっこよかった！」5年生の村田梨央さんは「放水体験で、水がすごく重たくてびっくりしました」と感想を述べました。堀切校長先生は「消防団方の動きをみて、普段みんながやっている、『前ならえ』や『気を付け』は役に立ることなんだと分かりました。将来皆さんも、消防団に入って頑張りたいと思います」。



負けないぞー！！



順調に水が溜まっています！



！？

「最後はみんなで一気に行く作戦！」でまさかの大逆転！

いつ火災が起きるか分からないから日頃から訓練をしています。ゴールの後の後始末を見てください。消防団員は最後まで気を抜かず動くことを意識して訓練しています



消防団の仕事へのプライドを示した雲石町消防団米澤副団長と第2分団



消防服を着て、放水体験する児童



地域で児童の見守り活動



令和３年度には、全PTA家庭に見守りの腕章を配布して、家族であれば誰でも腕章を付け、農作業や散歩などをしながら子どもたちの登下校を見守る「ながら見守り」の活動を始めました。最近は**不審者**だけでなく、**熊**や**イノシシ**の出没も多く、子どもたちの登下校の安全を、地域のみなさんにも気にかけていただきたいと思います。御所小学校の教育活動へのご理解と協力をお願いいたします！

Ⅲ 成果と課題

1 成果

- ・学校経営等について委員の皆様に承認をいただき、ご理解と協力をいただきながら学校運営を行うことができた。
- ・今年度は、新規事業として、「ふるさと遠足」での大村の蕎麦打ち体験と鶯宿温泉街のウォークラリーを実施することができた。学校運営協議会委員が地域や関係機関の方々を巻き込んで、地域とつながる活動となった。
- ・昨年度実施した「防災学習」での操法見学を今年度は、参加型の消火競争を加えて実施できた。防災意識を高めるとともに、地域を守るために活躍する消防団について知ることができた。

2 課題

- ・新たな地域の人材を発掘し、より地域とのつながりを強め、継続性のある運営を行うこと。
- ・防災学習の開催時期の検討。（今年度は１０月前半の実施となり農作業の多忙な時期と重なってしまった）

Ⅳ 次年度の計画

- ・今年度同様に３回の運営協議会において学校運営、学校評価について協議し、地域とのつながりのある学校経営の推進。
- ・「ふるさと遠足」での大村の蕎麦打ち体験、鶯宿温泉街のウォークラリーを継続、発展。
- ・子ども達に参加できる工夫を入れた「防災学習」を継続、発展。

令和 4 年度雫石中学校コミュニティ・スクール実践報告集

第 1 回学校運営協議会 6 月 7 日（火）16:00～17:00

- 1、本年度の経営・教育目標について（承認）
- 2、教育課程および地域学校協働活動について
- 3、学校の課題について
 - ・部活動の精選・施設面
- 4、教員の授業力向上について



（雫石中学校第 1 回運営協議会の様子）

第2回学校運営協議会 11 月 29 日（火）14:30～16:30

授業参観実施

- （1）学校経営について（校長）
 - ①新型コロナ、②不登校対応、③部活動、④いじめ対応、⑤情報モラル、⑥施設環境面、⑦ボランティア活動、⑧体力向上、⑨雫石中生の活躍について
- （2）学校の現状について（副校長）
 - ①地域連携活動、②不登校・いじめ、③施設環境（Wi-Fi・更衣室・スキー指導者確保）、④新型コロナ対策、⑤学校経営内部評価と学びフェスト内部評価、⑥生徒の活躍（県中総体、東北大会、県新人大会）
- （3）「熟議」（4 人一組のワークショップ形式）

テーマ「雫石中に期待すること」「それぞれの立場で雫石中にかかわれること」



（雫石中学校第 2 回運営協議会の様子）

第3回学校運営協議会 2 月 14 日（火）15:00～16:30

- 1、学校課題について
 - ①学校不適応生徒について②いじめ案件について③施設・環境面について④新型コロナ対策について
- 2、次年度行事について・・・卒業式、入学式、修学旅行、体育祭
- 3、令和 4 年度の中学校の実態について
 - ①岩手県民計画指標から②学びフェストから
- 4、令和 5 年度学校経営の重点について・・・承認
 - ①経営の具体プラン
 - ・メールによる欠席連絡の導入・下校用スクールバスの運行変更
 - ・次年度学校運営協議会委員の選任について
 - ・学校支援活動の拡充について
 - ②雫石中生の活躍（スキー大会等）
 - ③その他
 - ・部活動の見直し状況について・部活動の地域移行
 - ・中総体等の中体連主催大会への、各種スポーツ団体の参加について



（雫石中学校運営協議会の様子）

II 特色ある活動

「よしゃれ」練習会開催

7月5日（火）と6日（水）、雫石中学校で雫石中学校1年生の「よしゃれ」練習会が行われました。雫石町婦人会の佐々木智恵さん、岩持斗季子さん、中川真理子さん、赤坂淑恵さん、雫石高校郷土芸能委員会の生徒が指導にあたりました。2年間コロナウイルス感染症の為に中止になっていた『よしゃれ祭り』のパレード



に参加するための練習会で、5日は体育館で、6日は実際のパレードの動きを確かめるために校庭で行われました。

前の列との間隔が空いたときは、走らず、踊りながら間隔を詰めていくのがコツだとい

うことを教わりました。中学生の列の中に、雫石高校の生徒たちが入って手本を示し、それを真似しながらうまく踊れるようになっていきました。中学生は指導してくださった佐々木智恵先生の言葉に「はい！」と元気に反応し、楽しい雰囲気の練習会になりました。



指先はピンと伸ばしてーっ！！

8月11日（木）、3年ぶりのよしゃれパレードを雫石中学生・雫石高校生たちが盛り上げてくれます！

～地域の方に学び、六次産業化を目指す～

雫石中学校 家庭部食堂



7月26日、28日、8月1日、3日、4日、雫石中学校家庭部は畑で作った野菜を使って調理し、学校の先生方に販売する家庭部食堂を開設しました。28日（木）は野菜天井定食【キュウリのぬか漬け、ブロッコリーとキュウリの胡麻よごし（胡麻和え）、ミニトマト、切干大根添え】を提供しました。部員たちは下ごしらえ、揚げ物、盛り付け、洗い物を分担し、加工から販売までの「連携プレー」と「手際」を鍛えるためのトレーニングの一環として行いました。調理に使用された、ナス、ピーマン、キ

野菜作り・料理・販売など、私たちが実践していることは、一生役立つ財産になります。ぬか床の世話も面白いです(^_^)



野菜作りを教えてくださいました農林課の皆さんへ
心を込めて作りました v③v

ュウリ、ミニトマトは家庭部の畑で採れたもので、キュウリのぬか漬けのぬか床も部員たちが作ったものです。生徒たちはぬか床を各自持ち帰り、それぞれの家庭の味に育てています。家庭部は、



野菜作りを指導する雫石町農林課の方々や、調理、加工、販売に至るまで、地域の方たちから学びながら活動しています。自分の為、食べてくれる人の為、地域の為にという気持ちが家庭部を応援する人たちにも伝わっていると感じました。

生産から販売までの六次産業化を目指す雫石中家庭部。今は、食品衛生上、調理加工したものを不特定多数の人に提供することは出来ないで、今年産業まつりに出店するときは、加工していない野菜を販売することになります。



無添加・ヘルシーな野菜天丼定食

野菜天丼定食は 500 円、単品の天ぷら 100 円、キュウリの浅漬け 30 円です。天ぷらは揚げたて、キュウリは味が染みて冷え冷えです！！



先生方に好評で、完売しました！

告知

「雫石中学校家庭部の野菜市場」(屋外テント店舗)

10月16日(日) 産業まつり2日目

9:00~13:00 (売り切れ次第閉店、お早めに！)

ジャガイモ・サツマイモ・ネギ・カボチャ・ドライフラワーアレンジメント

格安販売！

赤い羽根共同募金付き商品、売上金の一部は町に役立てるために寄付します

5/23 今年は作付面積を倍に！ 雫石中家庭部菜園の挑戦

雫石中学校家庭部がキュウリの棚づくりに挑戦しました。今年はより専門的な技術を学ぶため、農業指導センター専門指導員の谷地正司さんの指導を受け、さまざまな野菜を育てます。部長の中村はるさんは「昨年までは自分たちで試行錯誤していたが、今年は技術が進歩した。産業まつりに向け頑張りたい」と意気込みを語りました。



5/30 雫石中2年生が清掃活動

毎年、5/30(ごみゼロ)にちなみ、昭和53年から行われている国道清掃。今年も雫石町総合運動公園内を中心に清掃活動を実施しました。

参加した生徒たちは、互いに役割分担をしながら協力して草取りやごみ拾いに取り組み、地域への奉仕活動に汗を流しました。



雫石中学校 1・2年生 ふるさと学習&職業学習 虹色コンパス in 雫石中学校～地域の方から生き方を学ぶ

雫石高校で実施している探求の授業『虹色コンパス』を取り入れ実施

10月20日(木)、21日(金) 雫石中学校の1年生と2年生が、地域で働く人々や様々な職種の人と対話し生き方を学ぶ授業を行いました。雫石町内を中心とした企業の方に体育館にお越しいただき、4～6人の生徒のグループが1セッション20分程度で順番に企業のブースを巡りました。生徒たちは企業の方と対話し「働くということ」「働くことのやりがい」など仕事や生き方に対する学びを深めました。

10月20日1年生を対象に雫石の産業に携わる人々から、郷土で生きることを学びました。「ふるさと学習」



菜種油絞りを実演する「道の駅雫石あねっこ」佐々木さん



きのこ農家の佐々木潤さん



町内20の企業や個人事業主の方が集結



消防雫石分署の高橋さん



福祉事業を展開する株式会社「航和」



ハンター谷崎さんの横にはイノシシ!?

10月21日(金)2年生を対象に町内外25の企業や、個人事業主の方から話を聞きました。例年2年生は企業の職場体験を実施しておりますが、昨年度同様、様々な企業の方と交流する形になりました。「職業学習」



「ホテル森の風鶯宿」の村上さん



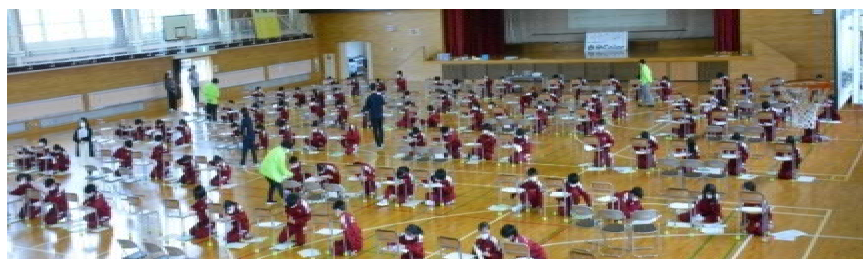
「住工房 森の音」の櫻田さん



フリーアナウンサーの村井由紀子さん



対話を通して学んだことを図式化



学んだことを報告し合い、仕事への考えを深めました

7/5～7/6 雫石中1年よしゃれ練習会

よしゃれ祭りのパレードに参加するため、雫石町婦人会の佐々木智恵さん、岩持斗季子さん、中川真理子さん、赤坂淑恵さん、雫石高校郷土芸能委員会の指導で練習会が開催されました。指導者の皆さんの言葉に元気に反応する中学生たち。楽しい雰囲気の練習会になりました。



町ボランティアフェスティバル

9月10日（土）、町総合福祉センター周辺で3年ぶりのボランティアフェスティバルが開催され、本校の有志も待ちに待った参加となりました。

イベントには、家庭部や有志の生徒約20人が運営スタッフとして協力しました。

生徒たちは、総合案内係やステージ進行、飲食スペースの消毒作業、「ぼうさいクッキング」の調理などに分かれて活動しました。参加した生徒

は「お客様が笑顔になり、イベントを楽しんでいただけるよう、私たち自身も楽しんで活動できました」と話していました。ご指導いただいていた地域の方々からは「雫中生、雫高生の働きぶりに驚いています。中高生のような若い力が町のイベントには必要です。中高生から元気を頂いています」などの声を聞くことができました。



雫石中学校3年 食育講座：「地域の伝承と行事食」

夢に向かって粘り勝ち！

本格餅つきと振る舞い餅



12月16日（金）雫石中学校3年生は「地域の伝承と行事食、刈上げ餅」の体験講座を行いました。岩手県食の匠の櫻田シゲ子さんと、桐山桂子さん、役場職員が講師として教えてくださいました。3学年PTA行事も兼ね、5人の保護者が振る舞い餅の手伝いをしました。生徒は、町内の米農家（階保さん）から新米のもち米を提供いただき、櫻田さんから地域の伝承行事「刈上げ餅」の行事に込められた意味を学



クラスごとに餅つき！ヨイショ〜！

んで、餅つきを行いました。つくたての餅は、鶯宿の「餅工房むらかみ」からくるみと胡麻を提供いただき、きな粉、あんこの4種類をからめ振る舞われました。

刈上げ餅とは・・・

一年の農作業の無事に感謝し、収穫を祝い、餅をついて食べる神事



餅をふるまう割烹着姿の生徒たち

その後、校長先生と学年 PTA 会長坂井一博さんによる餅まきが行われ、生徒たちは歓声をあげながら餅を拾い、受験勉強のストレスを発散させました。諏訪由奈さんは「みんなで餅をついて盛り上がり、団結も深まって楽しい！」と話し、餅を 10 個食べた女子もいたり、伝統行事を楽しみました。3 年生は「節目」としての伝統行事を体験し、それぞれの進路に向けて受験勉強の「餅バージョン」も一層高まったことでしょう！



給食も食べたけど、餅は別腹！

雫石中学校×社会福祉協議会

～顔を見て、やさしさ届ける世代間交流～

今年もがんばるぞ～！雪んこ見守り隊始動

1 月 7 日（土）、雪んこ見守り隊の出陣式が雫石町社会福祉協議会で行われ、全 8 回の活動が始動しました。今年は雫石中学校から過去最高の 104 人の参加応募があり、中には受験と両立しながら参加する 3 年生の姿もありました。

この日は、雫石高校生や地域の有志ボランティアの方と 8 班に分かれて一人暮らしの高齢者宅を訪問し、安否確認の声掛けを中心に玄関先の除雪を行いました。2 年生の佐々木葉久さん、山本結愛さん、杉澤明莉さんは「待っていているおじいちゃんや、おばあちゃんと会話するのが楽しい！」と屈託のない笑顔で、活動自体を楽しみながら参加していました。

社会福祉協議会の澤口主査は「1996 年に始まった当時の子が親になっている。毎年この活動を心待ちにしている方たちが居るので、コロナ禍でも続けてきて良かった」と話します。「雪んこ見守り隊」は喜んでくれる人の顔が見える世代間交流です。



みんなでやれば、あつという間だ！

来週も来るからね、元気でね！



地域の方々と一緒に高齢者宅を除雪する雫石中学生徒

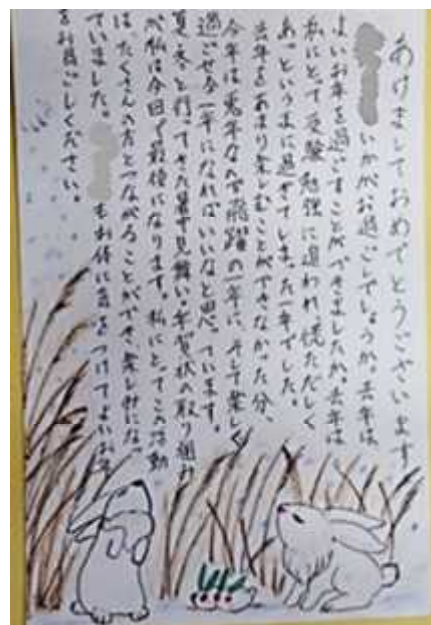
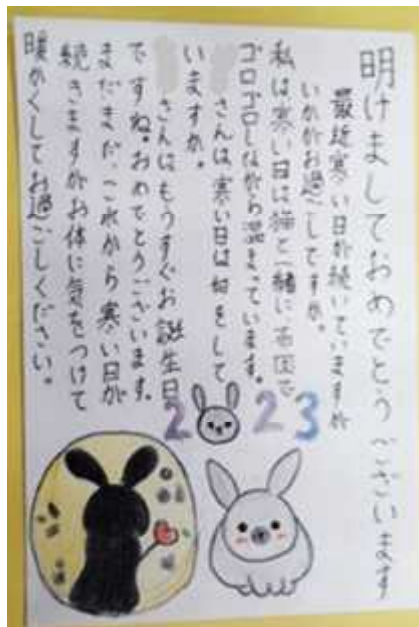
～手紙でつながる世代間交流～

雫石中学校では、授業の一環で暑中見舞いと年賀状を送る「まごころお手紙」の取組を全校で行っています。

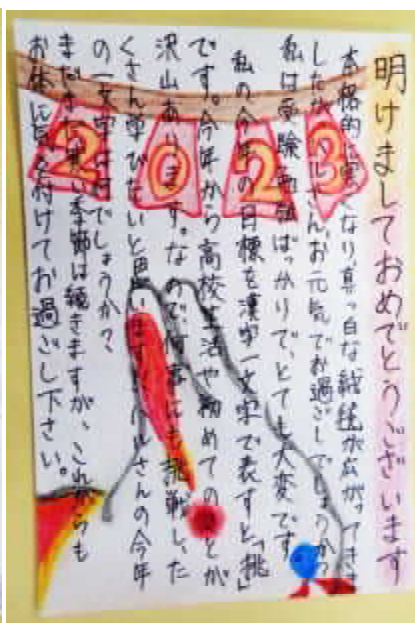
この取組は令和元年の、敬語や時候の挨拶、硬筆書写を実践する3年生の国語の学習が始まりでした。生徒たちはハガキを書く経験が少なかった為、丁寧に指導しなければ、文章を書くことが難しい状態でした。特に3年生は高校受験の入試願書をペンで正確に作成する必要があったため、この取組が役立ちました。出来上がったハガキで世代間交流したいという及川美幸先生の思いを社会福祉協議会が受け止め、町内に住む75歳以上の一人暮らし世帯の方や民生委員に届ける仕組みができました。送る相手が定まったことで、生徒は相手を想像しながら身近な話題やイラスト、敬い思いやる言葉を添えて年賀状をしたためることができました。

令和2年、社会福祉協議会と様々な団体が連携した「しずくいし『つながる』BIGプロジェクト」に雫石中学生会が協賛、手作りマスクを一人暮らしの高齢者に届ける取組に、1年生が絵手紙を添えました。受け取った方から、お礼の返信や感謝の電話、感激の声が多数寄せられました。直接気持ちを伝えようと中学校に来校された方もいて、生徒と感動の対面を果たしたこともありました。この手紙が一人で暮らすお年寄りに寄り添い、活力になっていることがわかるエピソードです。

令和3年には、暑中見舞いと年賀状を全校での取り組みに拡大しました。受け取った方からの喜びの反響が大きかったことから、令和4年からは、社会福祉協議会後援「しろやぎさんホットレター事業」として福祉事業になりました。この活動は、生徒の国語力を向上させ、優しい心を育みながら、地域のお年寄りに元気を与える活動になっています。社会福祉協議会の澤口主査は「今は核家族が多く、お年寄りが遠い存在になっている。この活動を通して地域に住むお年寄りを身近に感じてほしい。そして雫石の良いところ、足りないところ、町、人について考えるきっかけになればいい」と話します。



もらった方の笑顔を想像して書いています



SNS時代の今、手紙の文化を守っていききたいですね

Ⅲ 成果と課題

【成果】

- ・ 地域とともにある学校づくりを推進するために、社会福祉協議会や農林課の方々の力を借りて行事を行った。その結果、生徒たちは地域の方々との触れ合いを通して、自分の住んでいる地域への関心が高まった。
- ・ これまで実践してきた地域と関りのある活動や行事を精選して実施することができ、社会貢献意識を醸成することができた。

【課題】

- ・ 学校運営協議会委員の構成について検討が必要である。本校が実践している行事を精選し、関係機関の方々に委員になってもらうことで打ち合わせや当日の運営がしやすくなる。

(例) ① 雫石高校 → 中高連携

② 社会福祉協議会 → ホットレター等

③ 役場 総務課 地域づくり課 → 虹色コンパス等

④ 雫石町スポーツ協会 → 地域清掃等

⑤ 雫石町婦人会 → よしやれ祭

⑥ 主任児童委員 → 各関係機関との連携

令和5年度の計画

- ①年間3回の学校運営協議会の開催
- ②防災マニュアルリーフレットの配布と説明
- ③SNSリーフレットの配布と説明
- ④「よしやれ祭り」への協力
- ⑤地域講師による職業学習
- ⑥国道清掃、花壇整備等
- ⑦高齢者への暑中見舞い、年賀状作成配布
- ⑧家庭部による六次産業化実習
- ⑨餅つき体験
- ⑩福祉体験



地域の方々から職業について学ぶ雫石中学生徒



虹の似合うまち雫石町